

今日のトピック 逆風下の米国グロース株 長期金利から業績を重視する展開へのシフトが待たれる

ポイント1 グロース株優勢の修正進む グロース/バリュース比率が大きく低下

- 米国株式市場は実質長期金利が上昇する中、グロース株が調整色を強めています。昨年末から1月28日までの下落率はS&P500グロース指数が▲10.9%、同バリュース比率が▲2.7%です。昨年年央から再加速したグロース株優勢の流れは修正過程にあります。

ポイント2 強まった債券価格とのプラスの相関 金融政策を巡る混乱の落ち着きを待つ展開

- S&P500グロース指数と同業績、債券価格との相関を調べました。業績との相関は弱く、債券価格とのプラスの相関が非常に強くなっています。こうした関係は金利の低下が想定される金融緩和局面であれば追い風ですが、現時点では逆風となります。グロース株のボラティリティの低下には、金融政策を巡る混乱が落ち着くのを待つ必要がありそうです。

今後の展開 逆風下だからこそ業績に注目

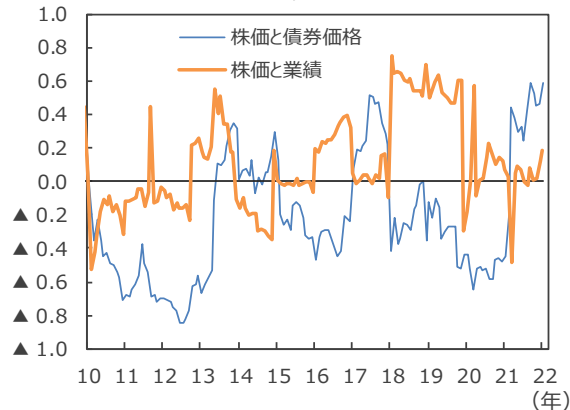
- 3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で、金融政策の見通しが明確化すれば、短期的には長期金利の上昇が一服する可能性があります。その後、景気が堅調に推移する中で金融政策の正常化が進行するため、長期金利は緩やかながら上昇すると見られます。合わせて業績の改善が期待され、株価は堅調に推移すると思われるので、債券価格の下落と株価の上昇という関係となり、相関係数はマイナスに向かう見込みです。また、株価と業績の関係は正の相関が強まると考えられます。
- 調整色を強めるグロース株ですが、企業がクラウドを積極的に活用し付加価値を創造するなど、ビジネスのデジタルトランスフォーメーション（DX）化が急速に進む状況に変化はありません。今後もその恩恵を受けるグロース株の業績拡大が期待され、株価パフォーマンスの好転も見込まれます。逆風下だからこそ、次の展開に備え業績に注目しておくことが重要だと考えられます。

【グロース/バリュース比率と実質長期金利】



(注) データは2014年1月2日～2022年1月28日。
グロース/バリュース比率はS&P500グロース指数÷同バリュース比率。
2014年1月2日=1。実質長期金利は米10年国債利回りー期待インフレ率。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【株価、業績と債券価格の相関係数】



(注1) データは2010年1月～2022年1月。22年1月は28日。
(注2) 相関係数（12カ月）は株式と業績（債券価格）がともに上昇/下落すればプラス。一方、業績（債券価格）が下落（上昇）して、株価が上昇（下落）すればマイナス。相関係数はS&P500グロース指数と同グロース指数の12カ月先予想EPS、米国債。米国債はBloomberg U.S. Treasury Total Return Index。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! 2022年1月27日 FRBはFOMCで3月利上げを強く示唆 インフレへの警戒を一段と強める
2022年1月18日 2022年の米国のインフレ見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。